

ご 挨拶

関東甲信越地方では例年より遅い梅雨入りとなりましたが、予想では短期間に降雨量が集中し7月中旬には梅雨明けを迎え真夏日が訪れるとのことでした。夏休み恒例の全国少年少女大会、並びに高校生大会が今年も無事7月下旬に開催される運びとなりましたのも関係各位、とりわけ新潟県協会の皆様のお陰様と心より感謝申し上げます。

激変した環境への対応策として2022年はそれまでとは違った大会運営となりましたが、オンラインと対面の良い面を取り混ぜ、コロナ禍明けの昨年、2023年の夏は日本開催の国際親善大会から始まりました。全国各地の少年少女、高校生躰士のみなさんも多数参加され、外国人躰士たちとの楽しい時間を共有していただけた事と思います。

先の予測が立て難く不確実性が確実性を上回る時代と言われますが、子供たちが成長する過程においては知識の詰め込みだけでなく心の思うままに自分を表し、興味のあることが見つけられ、没頭する時間をもてることが理想的です。来年で創設から60周年を迎えようという躰道ですが、創設から間もなく日本国外でも受け入れられ、1980年代には第一回目の国際交流イベントが開催されていました。早期から国際親善の場を設けられたのは、広い視野を持ち、相手の立場を理解しようという姿勢こそが人の成長には欠かせないものであるという創始者のお考えがあったからだと思います。

不確実な未来像において確実なのは子供の数は今後も暫く減り続けるということですが、コロナ禍を激変と捉える大人の受け止め方に対しコロナ禍ネイティブの世代は衛生的で非接触な生活習慣や住環境を躰られながら、そこから始まる対人関係、ルールやマナーといった社会性を身につけて行くことでしょう。数は減っても質の高まるよう努めることで有用な人格、技量を目指したいものです。力本位ではない躰道の価値が高まるのは21世紀であるという今、若いみなさんの取り組みとその未来がとても楽しみです。躰道以外にも興味のあるものに出会い、ご家族の協力を得て集中する時間、リラックスする時間を作る事ができると良いリズムが保てると思います。最後になりましたが、本大会に参加する皆様のご健康と大会の成功をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

令和6年7月

日本武藝躰道三代宗家
祝 嶺 正 献